

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2024/08/08

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	35.58	0.12
JPY/THB	0.2426	-0.0030
USD/JPY	146.68	2.34
EUR/THB	38.88	0.13
EUR/USD	1.0922	-0.0009
USD/CNH	7.173	0.014
SGD/THB	26.79	0.04
AUD/THB	23.20	0.08
USD/INR	83.95	0.00
USD Index	103.20	0.23

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.335	0.031
10Y (THB)	2.607	0.044
5Y (USD)	3.762	0.031
10Y (USD)	3.943	0.051

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,390.5	1.4
WTI (Oil)	75.23	2.03
Copper	8,769.5	-159.0

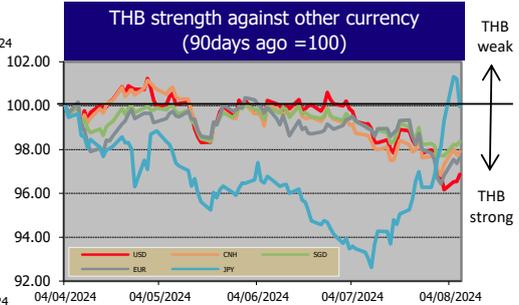
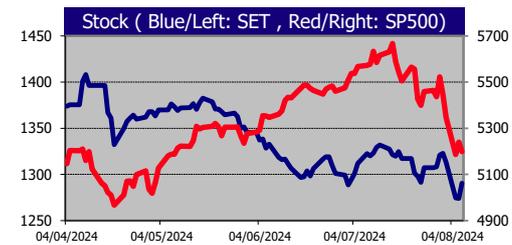
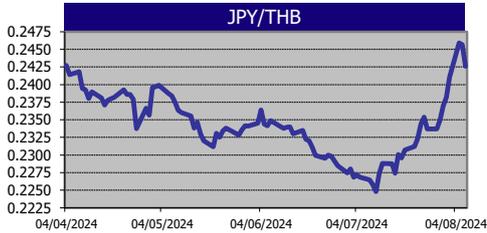
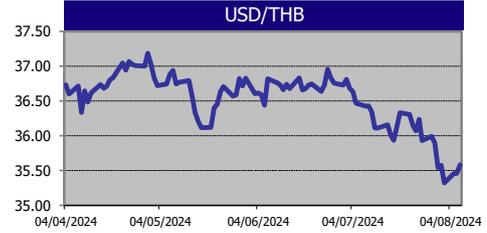
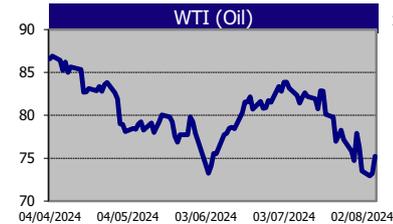
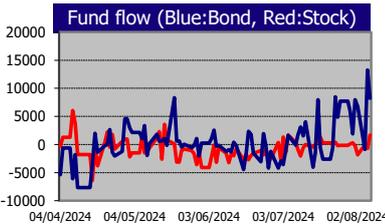
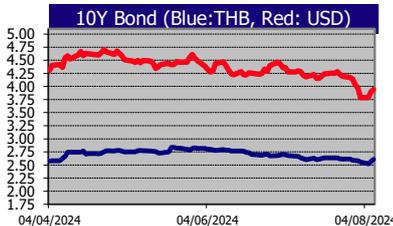
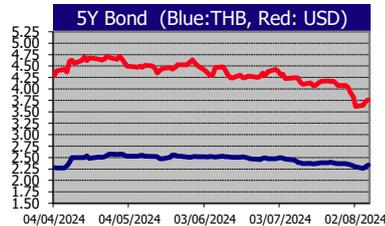
Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,290.55	16.54
NIKKEI (JP)	35,089.62	414.16
DOW (US)	38,763.45	-234.21
S&P500 (US)	5,199.50	-40.53
SHCOMP (CN)	2,869.83	2.55
DAX(GER)	17,615.15	260.83

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	1,667	2390.8
Bond net flow	8,214	-5036.0

*compared with previous day
(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

昨日のドルパーツは小幅上昇。35パーツ台半ば付近でスタート。アジア通貨に対し、幅広くドル買い戻しが優勢となる中、バンコック時間午前中にタイ6月のPPIが低調な結果となったことや、同CPIが前月から伸びが加速したものの、依然としてインフレーターゲットに届かない結果を受け、ドルパーツは正午前に一時35パーツ台後半まで上昇。一服後は下落に転じたが、「タイ憲法裁判所が野党に対する解党処分の判決を下した」との報道が確認されると、政治不安への懸念からドルパーツは再び上昇し、下落幅を取り戻した。欧州時間にドルパーツは下落したが、NY時間に入ると米株高や米金利の上昇を受けて、ドル買いが優勢となり、35パーツ台後半で横ばい推移。35.58レベルでクローズ。

●ドル円その他

昨日のドル円は大幅上昇。144円台後半でスタート。午前中に日銀内田副総裁の「市場が不安定な状況で利上げすることはない」とのハト派的な発言を受けて、ドル円は急伸し、一時147円台半ばを付けた。上昇一服後も高値圏での推移が続き、海外時間へ。NYオープン後、146円台後半まで下落する場面もあったが、その後は米株高や米金利の上昇がドル買いの支えとなり、147円台後半まで反発した。NY時間午後の米10年債の入札は低調な結果となるも、ドル円は反応薄。その後はじり安で推移し、147円台を割り込み、146.68レベルでクローズ。

Bangkok Dealer's Eye

ちょうど1週間前、日米ともに金融政策決定会合を終えてドル円が149円台だった時に、更なる円高は見通しにくいと当欄に記載した。米国の年内利下げ観測が更に織り込まれる余地が少ないことと、日銀の追加利上げ観測は後退する可能性のほうが高いというのがその拠り所だったが、その後ドル円は米経済変調への懸念を発端とした市場の混乱とともに一時141円台後半まで円高が進み、昨日148円近くまで戻す荒い動きを見せている。要するに前者の読みが甘く円高が進み、後者の読みは概ねその通りで、ゆえに円安方向に戻したと考えているが、米利下げ観測については今後の経済指標の内容次第で十分に修正が考えられるものであり、年内3回の会合を残す中で利下げ予想回数が4回(利下げ幅25bp前提)となっている現状はどちらかというと織り込み過ぎとの見方が多い。他方、日銀については先日の利上げ決定後の市場混乱や、昨日の内田副総裁の一連の発言等を勘案すると、市場の織り込みが利上げ方向に再修正されるには余程の材料が必要と言えそうで、相場が落ち着くにつれ円高圧力も和らいでいく展開を基本線としたい。ただし、日銀がわずか1週間の間に、総裁がタカ派、副総裁がハト派と、全く逆の説明をしているのは気になることであり、疑心暗鬼を生じさせやすいこの状況が図らずも市場の混乱を長引かせてしまうシナリオにも留意は必要か。(吉田)